

「よりよい生活や人間関係を構築する学級経営の充実をめざして」

岐阜教育事務所

1 はじめに

本年度の要請訪問において、「学級経営の視点」を位置付けて、みなさんと一緒に学級経営の充実をめざしてきました。いじめや不登校などの問題を未然に防止し、子ども一人一人が自信をもち安心して暮らせる学校を先生と子どもの手でつくりあげていけるよう、取組を一層充実させていきたいものです。夏季休業以降、明確な方向性をもち、実践を積み上げていきましょう。

2 1学期の実践の振り返りから

「要請訪問の様子から」とらえた1学期の様子です。 「自己点検」しながら夏季休業以降の取組に生かしましょう。		要請訪問の様子から	自己点検
学習集団の育ち	1 欠席者の机やプリントが大切にされている。	○	
	2 先生や仲間の話を最後まで集中して聞いている。	◎	
	3 先生や仲間に対して素直に反応して聞いている。	◎	
	4 仲間に分かってもらおうと、相手意識をもって発言している。	○	
	5 分からないことを分からないと意思表示できる。	△	
	6 仲間の考えとかかわらせながら考え、発言している。	○	
	7 互いのよさやがんばりを認め合っている。	△	
	8 自分と違う考えも大切にしている。	○	
	9 つまずいた仲間に寄り添い、真剣に教えている。	△	
	10 自分たちで学習をつくり上げようという姿勢がある。	△	
	11 教科に関する係が積極的に働きかけている。	△	
	12 働きかけに応えようとする組織的な動きがある。	△	
掲示 所属感や学級の文化を高める教室	1 時期はずれ、破れ、はがれ等がなく、美しく整えてある。(環境)	○	
	2 よさや役割分担など、一人一人が位置付いている。(人権感覚)	◎	
	3 質の高い作品が工夫して展示・掲示している。(文化性)	○	
	4 学級目標等、目指す姿が具体的に示されている。(方向性)	○	
	5 係や委員会活動の動きや工夫が分かり、生き生きしている。(躍動感)	△	
	6 学級目標とつないで、学級の取組や財産が学級の歩みとして累積され、意味付けや価値付けがなされている。(集団性)	△	
結ぶ教師の指導 個と個・集団を、個を大切に	1 どの子に対しても平等な評価や言葉かけをしている。	◎	
	2 悪ふざけや嘲笑を許さない指導姿勢が感じられる。	◎	
	3 取組のよさを学級目標と結び付けて価値付けている。	△	
	4 個の努力を価値付けている。	◎	
	5 仲間のよさを価値付けている。	○	
	6 作品に温かな朱書きが入れている	○	

① 「1学期の実践の振り返り」の分析より

◎多くの学校でよく実践されている内容から

- ・学級内での約束やルール作りが徹底され、役割等、一人一人を位置付けた経営

△今後、一層工夫・改善するとよい内容から

- ・自分に自信がなかったり、表現の仕方が分からなかったりして、自分の思いや願いを仲間に十分出し切れない子どもはいないか。
- ・学級集団としての高まりや共に生活する価値や意義を十分実感できない子どもはいないか。
- ・もしかすると、上記の◎が形だけの指導に陥っていないか。

(いじめ防止の視点から見ると、掲示には「よさや役割分担など、一人一人が位置付いている(◎)」が、学習集団としては、「互いのよさやがんばりを認め合っている(△)」とまではいかない、など)



3 夏季休業以降の実践につなぐ

① 2学期開始までにしておきたいこと

- ・気になる児童生徒の夏休み中の状況をとらえ、自信をもって2学期を迎えられるよう、指導を行う。
- ・2学期初日に児童生徒が動ける準備をしておく。
(不登校対策の手引「心のキャッチボール」Q26【参考資料】参照)

<http://www.pref.gifu.lg.jp/pref/s17782/kokoro/mokuji.htm>

② 2学期スタート時に行うこと

- ・児童生徒一人一人の夏休み中の状況を十分把握し、2学期の取組に対して安心できる助言をする。
- ・夏季休業中の児童生徒のよさを積極的に価値付け、自信をもたせる。
- ・自分を高める2学期の目標(個の目標)と学級としての2学期の目標(集団の目標)をもてるようにし、具体的な行動目標を明確にして活動できるようにする。
(不登校対策の手引「心のキャッチボール」Q26【参考資料】参照)

③ こんな2学期にしたい

- ・「分かる授業」を大切にする。
- ・「信頼しあえる人間関係」(教師と児童生徒、児童生徒同士)をつくる。
(不登校対策の手引「心のキャッチボール」Q20,21 参照)

そのために「夏季休業以降の実践」の場で、工夫・改善したいことの詳細例

【朝の会では】

- 1分間スピーチや係が願いを語る等、思いや願いをみんなで共有する場がある。
- 子どもが1日の見通しをもち、学級がめざす具体を共有する場がある。
- 座って話を聞くだけでなく、班で1日のめあてを確認する等、活動する場がある。

【授業では】

- 自分の考えがもてるよう時間を確保するとともに、個に応じた手立てを講じている。
- 子どもが考えを交流する場と十分な時間が確保されている。(教師がしゃべりすぎない)
- 仲間に自分の考えを伝える手立てが指導され、発言や活動ぶりについて認め励ましている。
- 挙手していない(できない)子どもも大切にし、挙手を促したり、寄り添い、仲間の考えを理解しているか見届けたりする。

【休み時間・昼休みでは】

- 教師は、子どもに寄り添い、一緒に活動したり、話したりする中で、子どもの実態をとらえている。

【給食・掃除では】

- 平等に役割分担されている。
- 自分の分担を真剣に取り組む姿がある。
- 掃除の振り返りを真剣に行う場がある。

【帰りの会では】

- 1日の反省を具体的な事実に基づいて振り返るよう指導している。
- 1日のがんばりを認め合う場がある。
- 教師が子どもの具体的な姿で、その子の自信につながる認めや集団としての高まりにつながる認めをしている。



【一日を通じて】

- 子どもも教師も、学級目標を意識した経営がされている。
 - ・子どもも教師も学級目標に関わらせた話題が出てくる経営
 - ・学級目標とつないだ教室の掲示